

●日本の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）2 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

- ・ 諏訪之瀬島：21～23 日及び 28 日に噴火が発生した。

【活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山】

- ・ 雌阿寒岳：ポンマチネシリ 96－1 火口の高温状態が続いていたと推定される。
- ・ 十勝岳：62－2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていたと推定される。
- ・ 樽前山：A 火口及び B 噴気孔群の高温状態が続いていたと推定される。
- ・ 浅間山：噴火は発生しなかったが、微弱な火映が頻繁に観測された。下旬に山頂直下がわずかに膨らんだことを示す傾斜変化が観測された。
- ・ 三宅島：火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2004 年秋以降、日量 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。
- ・ 福德岡ノ場：2 月 1 日に変色水が確認された。
- ・ 阿蘇山：湯だまり内では小規模な土砂噴出が観測されている。湯だまりの量は 14 日に約 5 割から約 4 割に減少した。湯だまりの表面温度の高い状態が期間を通して続き、浅部の熱的な活動が依然活発であった。
- ・ 霧島山：御鉢火口の噴気活動は依然やや活発な状態が続いている。
- ・ 桜島：噴火は発生しなかったが、A 型地震の多い状態が続いている。GPS による地殻変動観測で、山体のわずかな膨張を示す変化が観測されている。
- ・ 口永良部島：火山性地震及び火山性微動のやや多い状態が続いている。新岳火口付近で噴気量の増加がみられた。

【その他】

- ・ 2 月 1 日から、吾妻山、草津白根山、九重山、霧島山、薩摩硫黄島、口永良部島及び諏訪之瀬島において、火山活動度レベルの提供を開始した。

以下、各々の火山の主な活動について解説する。図表その他において、噴火した火山を▲、活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山を●、その他記事を掲載した火山を◇、火山活動度レベルを①②等の丸付き数字で表記する。

また、末尾の資料として、期間中に発表した火山情報の一覧表、2 月 23 日に開催された第 100 回火山噴火予知連絡会コメント及び統一見解を掲載する。



図 1 今回記事を掲載した火山

火山名	平成16年(2004年)												H17		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月			
雌阿寒岳								●	●	●	●	●	●	●	●
十勝岳		▲													
樽前山								●	●	●	●	●	●	●	●
吾妻山	●														
草津白根山			●									●			
浅間山	●	●	●	●	●	●	●	▲	▲	▲	▲	●	●	●	●
富士山					●										
伊豆東部火山群		●	●												
伊豆大島	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
三宅島	▲(※)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
伊豆島								●	●	●	●	●	●	●	●
西之島	●														
硫黄島					●										
福德岡ノ場	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
阿蘇山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
霧島山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
桜島	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
薩摩硫黄島	▲	▲	●	▲	●	▲	●	▲	●	▲	●	▲	●	▲	●
口永良部島															●
諏訪之瀬島	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
硫黄島								●	●						

(※: 気象庁職員が山頂付近で作業を行った際に、山頂付近に限定されると思われる微弱な降灰を確認した。これまでも同様の現象はあったものと思われる。)

表 1 過去 1 年間に活動があった火山

各火山の活動解説

火山名の後の [噴火・爆発・噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等] は、掲載した理由となった火山現象を示す。

火山名	平成16年(2004年)												H17		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月			
吾妻山															①
草津白根山															①
浅間山	②	②	②	②	②-①-②	②	②-③	③	③	③	③	③	③	③	③
伊豆大島	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
九重山															①
阿蘇山	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
雲仙岳	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
霧島山(新燃岳)															①
(御鉢)															②
桜島	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
薩摩硫黄島															②
口永良部島															②
諏訪之瀬島															③

● 雌阿寒岳 [熱]

2月16日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口、赤沼西方噴気孔及び中マチネシリの噴煙の状況はこれまでと比べて変化はなく、赤外熱映像装置¹⁾による観測では、各火口周辺の温度分布に変化はなかった。ポンマチネシリ 96-1 火口ではこれまで同様高温の状態が続いていたと推定される。

地震及び微動の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口は、噴煙活動の活発な状態が続き、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる観測では、噴煙は白色で高さは概ね火口縁上 200m で推移した。

地震及び微動の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

● 樽前山 [熱]

A 火口及び B 噴気孔群は、噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

地震及び微動の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

◇ 吾妻山

火山活動度レベルは 1 (静穏な火山活動) であった。

2月1日より、火山活動度レベルの提供を開始

表 2 過去 1 年間の各火山の火山活動度レベル

した。地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 草津白根山

火山活動度レベルは 1 (静穏な火山活動) であった。

2月1日より、火山活動度レベルの提供を開始した。地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなかった。

● 浅間山 [噴煙・火映・熱・地震・微動・地殻変動]

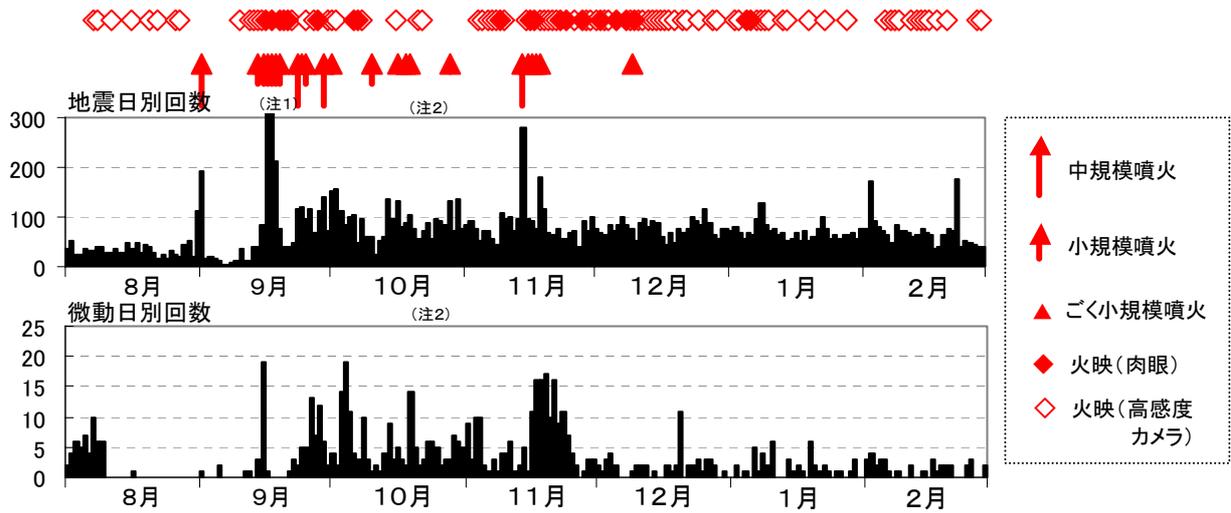
火映が頻繁に観測され、下旬に顕著な傾斜変化が見られた。火山活動度レベルは 3 (山頂で小～中噴火が発生する可能性) であった。

期間中、噴火は観測されなかった。

山頂火口からは、白色噴煙が連続的に噴出し、最高で火口縁上約 500m まで上がった。火口内の熱的な状態が高いことを反映して、期間を通じて、高感度カメラ²⁾により微弱な火映が観測された(図 2)。

2月9日に行った上空からの火口内の観測³⁾では、火口底の形状は昨年 12 月 8 日の観測と比べ大きな変化はなかった⁴⁾。赤外熱映像装置¹⁾による観測でも、火口内の温度分布にはほとんど変化がなく、最高温度は 465℃ (昨年 12 月 8 日は 411℃) で依然高い状態であった。

火山性地震は依然としてやや多い状態が続いた。2日に 173 回、22日に 175 回と一時的に増加したが、その他の日は一日あたり 38～93 回で推移した(図 2)。震源の位置は概ね火口直下の浅いところで特段の変化はなかった。2日の地震増加では傾斜計等他の観測データに異常な変化



(注1)9月16日の地震回数は1406回、17日は同624回。
 (注2)10月23日は新潟県中越地方の地震により18～23時の計数不能。

図2 浅間山 2004年8月～2005年2月の噴火、火映、地震及び微動の日別発生状況

は観測されなかったが、22日の地震増加は21～23日に観測された傾斜変化（後述）に伴って発生した。火山性微動も依然としてやや多い状態が続き、1日あたり0～4回で推移した（図2）。

山腹に設置した傾斜計による観測で、21日17時頃から山体直下が膨らむ傾向の変化がみられ、同日22時頃からは火山性地震も増加した。その後、22日22時頃から傾斜計の傾向は反転して山体直下が縮む傾向の変化に変わり、23日01時以降は火山性地震も減少し、地震の発生状況及び傾斜変化は、ほぼ21日以前の状態に戻った。昨年9月及び11月に発生した中爆発においては、同様の傾斜変化及び地震活動の活発化の後に噴火が発生したが、今回は噴火の発生はなく、噴煙活動にも特に変化は見られなかった。

GPSによる地殻変動観測及び光波測距観測では特に顕著な変化はなかった。

- 2) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が山麓に設置。
- 3) 長野県消防防災ヘリコプターにより、気象庁と東京大学地震研究所が実施。
- 4) 昨年12月22日及び今年1月26日に長野県の協力により実施した観測では、噴煙量が多く火口内の観測が実施できなかった。

◇ 伊豆大島
 火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）であ

った。

地震活動は静穏で、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

● 三宅島 [噴煙・火山ガス・熱・地震・地殻変動]

多量の二酸化硫黄の放出が続いた。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は火口縁上約700mであった（前期間の最高は火口縁上約1,000m）。

上空からの観測⁵⁾では、噴煙活動に大きな変化は見られず、山頂火口周辺及び火口内の状況も大きな変化は見られなかった。火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量2,300～4,000トンで依然として多い状態であった（図3）。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、火口内の最高温度は178～204℃で依然として高い状態にあった。また、全磁力の連続観測では特に変化は見られず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

2月7日11～14時に振幅の小さいやや低周波地震が一時的に増加し、火山性地震の日回数が182回に達したが、その他の日は日回数0～17回と少ない状態で推移した。7日13時47分に、空振を伴う低周波地震が発生し、三宅村神着及び

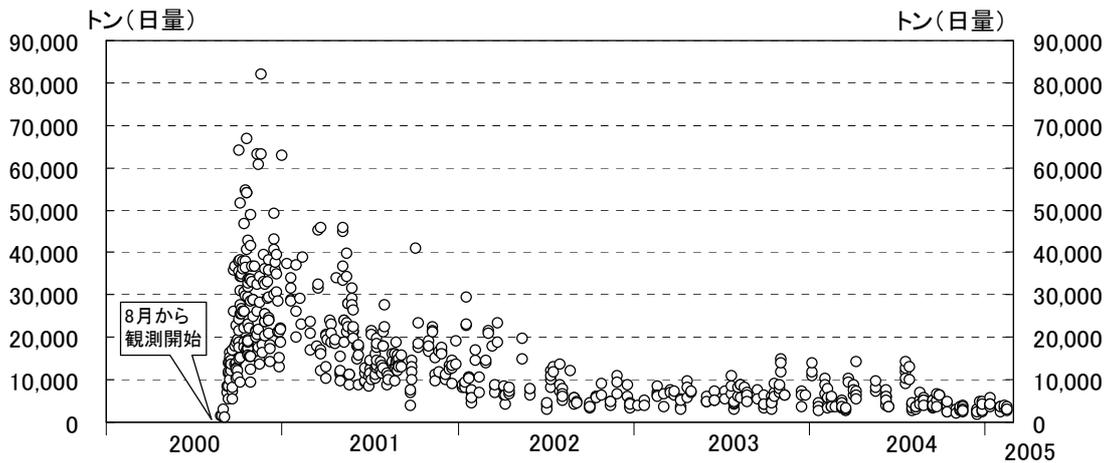


図3 三宅島 二酸化硫黄の放出量（日量に換算）（2000年～2005年2月）
2002年秋以降、日量3千～1万トン程度で横ばい傾向を示していたが、
2004年秋以降は、日量2千～5千トン程度とやや少なくなっている。

三宅村坪田で震度1が観測された。噴煙の状況は悪天のため不明だったが、三宅島測候所による現地調査では山腹に降灰は確認されなかった。

火山性連続微動の振幅は2002年末以降大きな変化は見られていない。また、GPS観測によると、山体浅部のゆっくりした収縮を示す地殻変動、及び深部での膨張を示す地殻変動⁶⁾が続いている。

5) 2月2日、9日及び15日に航空自衛隊、警視庁及び東京消防庁の協力により気象庁が実施。

6) 国土地理院の観測による。

● 福岡ノ場 [変色水]

2月1日に海上保安庁が行った上空からの観測によると、福岡ノ場から南東方向へ延びる、長さ約500m、幅約150mの黄褐色変色水が確認された。付近に浮流物は認められなかった。また、14日に海上自衛隊が行った上空からの観測では、変色水は確認されなかった。

◇ 九重山

火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）であった。

2月1日より、火山活動度レベルの提供を開始した。地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・噴湯現象・微動・地震]

火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）であった。

中岳第一火口では、2月14日の観測で、湯だまり⁷⁾の量が約5割から約4割に減少し、湯だまりの南西側が分離しているのが確認され、湯だまりの色が灰緑色から灰色に変化しているのが観測された。湯だまりの表面温度は71～74℃で、前期間（59～72℃）よりやや高くなった。火口壁の温度は14日に観測された106℃であった（昨年12月は126～134℃、今期間の他の観測日及び前期間は噴気等による観測条件不良のため観測未実施）。湯だまりの中央部や西側、分離した南西側部分で土砂噴出が発生し、土砂噴出の高さの最高は、7日に湯だまりの中央部で観測された約5mであった。噴湯現象は湯だまりの数箇所で見続き観測された。

噴煙の状況は、今期間を通じて白色で、噴煙高度の最高は火口縁上約500mで通常と比べ変化はなかった。

火山性微動は、継続時間の短い微動が期間中4回発生したが（前期間は3回）、連続微動は発生しなかった（前期間もなし）。孤立型微動は、1日当たり31～142回と一時やや多く発生し、月回数は1,740回であった（前期間は2,424回）。また、火山性地震は時々やや多く発生し、A型地震が103回（前期間は145回）、B型地震が808回

発生した（前期間は 811 回）。

G P S による地殻変動観測では火山活動に起因する変化は見られなかった。

7) 湯だまり：活動静穏期の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

◇ 雲仙岳

火山活動度レベルは 1（静穏な火山活動）であった。

地震活動、噴煙活動ともに静穏で、地殻変動等その他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

● 霧島山 [噴気]

新燃岳の火山活動度レベルは 1（静穏な火山活動）、御鉢の火山活動度レベルは 2（やや活発な火山活動）であった。

2 月 1 日より、新燃岳及び御鉢について、火山活動度レベルの提供を開始した。

御鉢火口内で 2003 年 12 月に確認された噴気孔からの噴気活動は、消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、監視カメラで火口縁上 50～200m まで上がる噴気が時々観測された。

新燃岳付近及び御鉢付近の地震活動は低調で、火山性微動は発生しなかった。

● 桜島 [地震・地殻変動]

火山活動度レベルは 2（比較的静穏な噴火活動）であった。

期間中、噴火は発生しなかった（前期間は爆発的噴火が 1 回発生）。噴煙活動も低調で、期間中、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）で降灰は観測されなかった（前期間は降灰量 12g/m²を観測）。

火山性地震は総じて少ない状態にあるが、A 型地震の発生は多い状態が続いており、今期間は 33 回発生した（前期間は 36 回）。A 型地震の震源は、ほとんどが南岳火口周辺の深さ 3～5 km に分布した。

G P S による地殻変動観測では、連続観測で、昨年 11 月頃から山頂を囲む各観測点間の距離の伸びにやや加速する傾向が見られ、また、繰返し観測で、昨年 9 月から今年 2 月の間に桜島がわずかに膨張していることを示す変化が見られた。

◇ 薩摩硫黄島

火山活動度レベルは 2（やや活発な火山活動）であった。

2 月 1 日より、火山活動度レベルの提供を開始した。今期間は、一時地震が増加した日もあったが、地震活動は概ね低調で、噴煙活動等の観測データにも特段の変化はなかった。

● 口永良部島 [地震・微動・噴気]

火山活動度レベルは 2（やや活発な火山活動）であった。

2 月 1 日より、火山活動度レベルの提供を開始した。

火山性地震は、日回数 2～28 回と増減があるものの、前期間に引き続きやや多い状態で経過し、月回数は 234 回であった（前期間は 346 回）。火

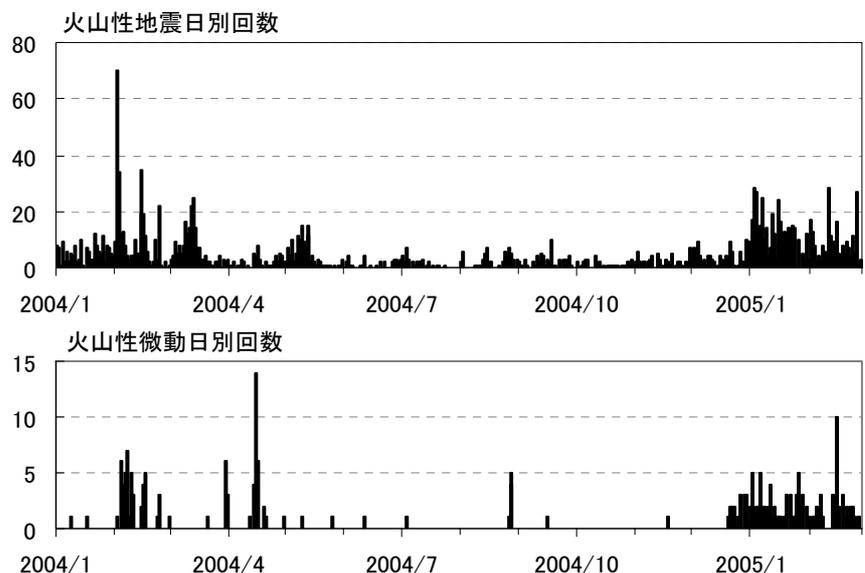


図 4 口永良部島 火山性地震及び微動の日別発生回数（2004 年 1 月～2005 年 2 月）

山性微動は継続時間の短いものが時々発生し、月回数は 36 回と依然やや多い状態であった（前期間は 59 回）（図 4）。

2 月 8 日に、京都大学防災研究所附属火山活動研究センター及び上屋久町役場口永良部島出張所から、新岳火口底及び火口外の噴気地帯の噴気量が増加しているとの情報があった。監視カメラ（新岳の北西約 4 km に設置）による観測では、8 日には噴気は確認されなかったが、11～14 日に新岳火口の北側の噴気地帯から、白色でごく少量の噴気が高さ約 10～40m に上がっているのが確認された。

▲ 諏訪之瀬島 [噴火・降灰]

下旬に噴火が時々発生した。火山活動度レベルは 3（小規模な噴火が発生）であった。

2 月 1 日より、火山活動度レベルの提供を開始した。

噴火が 21～23 日及び 28 日に発生したが、爆発的噴火はなかった（前期間は爆発的噴火が 2 回発生）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所（以下、出張所）によると、21 日及び 22 日にごく少量の火山灰を含む噴煙が火口縁上約 400m に上がっているのが確認され、23 日には中量の火山灰を含む噴煙が火口縁上約 600m に上がっているのが確認された。また、28 日に火山灰を含む噴煙が火口縁上約 400m まで上がっているのが確認された。

出張所によると、集落（御岳の南南西約 4 km）で、22 日に少量の、28 日午前中にはごく少量の降灰があった。

資料 1 2005 年 2 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
吾妻山	火山観測情報第 1 号	1 日 11:00	火山活動度レベルの提供開始。レベルは 1。
草津白根山	火山観測情報第 1 号	1 日 11:00	火山活動度レベルの提供開始。レベルは 1。
浅間山	火山観測情報第 32 号 ↓ (1 日 1 回発表) 火山観測情報第 52 号	1 日 16:00 ↓ 21 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況、二酸化硫黄放出量観測結果（32 号のみ）及び上空の風の予想）。レベルは 3。
	火山観測情報第 53 号	22 日 09:00	21 日 17 時頃から 22 日 01 時頃にかけて、傾斜計にわずかな山上がり変化が見られ、21 日 22 時以降、地震回数がやや増加。レベルは 3。
	火山観測情報第 54 号	22 日 16:00	22 日 08 時以降再び傾斜計にわずかな山上がりの変化が見られている。地震回数のやや多い状態継続。レベルは 3。
	火山観測情報第 55 号	23 日 09:00	21 日 17 時頃から見られた山上がりの傾斜計の変化は、22 日 22 時頃から山下がりの変化に変わり、ほぼ以前の状態に戻った。地震の発生回数も、23 日 01 時以降少なくなった。レベルは 3。
	火山観測情報第 56 号	23 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想）。レベルは 3。
	火山観測情報第 57 号	23 日 17:30	第 100 回火山噴火予知連絡会の浅間山の火山活動に関する統一見解。レベルは 3。
	火山観測情報第 58 号 ↓ (1 日 1 回発表) 火山観測情報第 64 号	24 日 16:00 ↓ 2 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想）。レベルは 3。
三宅島	火山観測情報第 60 号 ↓ (1 日 2 回発表) 火山観測情報第 105 号	1 日 09:30 ↓ 23 日 16:30	活動状況及び上空の風の予想。
	火山観測情報第 106 号	23 日 17:30	第 100 回火山噴火予知連絡会の三宅島に関する火山活動評価
	火山観測情報第 107 号 ↓ (1 日 2 回発表) 火山観測情報第 116 号	24 日 10:00 ↓ 28 日 16:35	活動状況及び上空の風の予想。
九重山	火山観測情報第 1 号	1 日 11:00	火山活動度レベルの提供開始。レベルは 1。
阿蘇山	火山観測情報第 5 号	4 日 11:05	火山活動は引き続きやや活発（小規模な土砂噴出発生、地震やや多い）。レベルは 2。
	火山観測情報第 6 号	10 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（湯だまりの表面温度高い、小規模な土砂噴出発生、地震やや多い）。レベルは 2。
	火山観測情報第 7 号	18 日 11:00	
火山観測情報第 8 号	25 日 11:00		
霧島山	火山観測情報第 1 号	1 日 11:05	火山活動度レベルの提供開始。レベルは新燃岳が 1、御鉢が 2。
薩摩硫黄島	火山観測情報第 1 号	1 日 11:00	火山活動度レベルの提供開始。レベルは 2。
口永良部島	火山観測情報第 6 号	1 日 11:00	火山活動度レベルの提供開始。レベルは 2。
	火山観測情報第 7 号	4 日 14:00	やや活発な火山活動継続（地震やや多い）。レベルは 2。
	火山観測情報第 8 号	10 日 15:00	やや活発な火山活動継続。レベルは 2。
	火山観測情報第 9 号	18 日 14:00	やや活発な火山活動継続（地震やや多い）。レベルは 2。
	火山観測情報第 10 号	25 日 14:00	やや活発な火山活動継続。レベルは 2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第 1 号	1 日 11:00	火山活動度レベルの提供開始。レベルは 3。

資料 2 第 100 回火山噴火予知連絡会コメント及び統一見解

平成 17 年 2 月 23 日、第 100 回火山噴火予知連絡会が開催され、同連絡会は、最近の全国の火山活動について委員及び関係機関からの報告をもとに取りまとめ、終了後、気象庁から以下のとおり発表した。

第 100 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

浅間山では、平成 16 年 9 月 1 日の爆発的噴火以降も山頂噴火を繰り返し、11 月 14 日にも爆発的噴火が発生するなど、火山活動は活発な状態が続いています。別紙のとおり統一見解を発表しました。

三宅島では、平成 16 年 11 月末から 4 回の小噴火が発生しましたが、火山活動は、全体として大きな変化はありません。今後も山麓に降灰をもたらす程度の小規模な噴火の可能性はありますが、現段階で大規模な噴火につながる兆候は認められません。また、二酸化硫黄を含む火山ガスの多量の放出はしばらく継続すると考えられます。

阿蘇山では、1 月以降、火口底の湯だまり量が減少傾向にあり、小規模な土砂噴出も確認されています。また、火山性地震も増加傾向にあり、火山活動はやや活発な状態が続いています。今後、火山活動が活発化すれば噴石を火口外へ放出するような噴火が発生する可能性もあります。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

1. 北海道地方

1) 雌阿寒岳

- ・ポンマチネシリ 96-1 火口は 350℃前後の状態が続いており、火山活動はやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2) 十勝岳

- ・平成 16 年 2 月と 4 月にごく少量の火山灰噴出があった 62-2 火口は噴煙活動が活発で、火山活動は引き続きやや活発な状態です。

今後も火山灰混じりの噴煙が見られる可能性があります。

3) 樽前山

- ・A 火口および B 噴気孔群では 400℃以上の高温が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

4) 有珠山

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

5) 北海道駒ヶ岳

- ・噴気活動や地震活動は低いレベルで経過しており、火山活動は静穏な状態です。
- ・わずかな山体膨張は引き続き観測され、火口近傍では温度や地殻変動にわずかな変化が認められます。

2. 東北地方

1) 岩手山

- ・東岩手山のやや深いところを震源とする低周波地震は引き続き発生していますが、平成 16 年 4 月以降少なくなっています。
- ・黒倉山山頂の噴気の高さが低くなり、噴気温度が下がるなど西岩手山の噴気活動は低下しています。
- ・黒倉山周辺で継続していた局所的な地殻変動も停止しました。
- ・以上のように、火山活動は静穏に経過しています。

2) 秋田駒ヶ岳

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

3) 吾妻山【火山活動度レベル 1（静穏な火山活動）】

- ・火山活動は平成 16 年 9 月以降、静穏に経過しています。

4) 安達太良山

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

5) 磐梯山

- ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。

3. 関東・中部地方

- 1) 那須岳
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 2) 草津白根山【火山活動度レベル 1（静穏な火山活動）】
 - ・新潟県中越地震を契機に地震活動や湯釜の状態に変化が見られていますが、火山活動に大きな変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。
- 3) 浅間山【火山活動度レベル 3（山頂火口で小から中噴火発生）】
 - ・別紙のとおり統一見解を発表しました。
- 4) 御嶽山
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 5) 富士山
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 6) 箱根山
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 7) 伊豆東部火山群
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 8) 伊豆大島【火山活動度レベル 1（静穏な火山活動）】
 - ・長期的には、地震活動、島の膨張傾向に顕著な変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。
- 9) 三宅島
 - ・平成 16 年 11 月末から 4 回の小噴火が発生し、空振を伴う低周波地震も時折発生するようになりました。
 - ・地殻変動観測の傾向には変化は見られず、従来からの浅部での収縮、深部での膨張が続いています。二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 2 千～5 千トンで大きな変化は認められません。
 - ・以上のように、火山活動は、全体として大きな変化はありません。今後も山麓に降灰をもたらす程度の小規模な噴火の可能性はあり

ますが、現段階で大規模な噴火につながる兆候は認められません。また、二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出はしばらく継続すると考えられます。

- ・三宅島では、今後も局所的に高い二酸化硫黄が観測されることがありますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

10) 硫黄島

- ・地震活動は比較的静穏ですが、地殻変動は続いています。

4. 九州地方

- 1) 九重山【火山活動度レベル 1（静穏な火山活動）】
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 2) 阿蘇山【火山活動度レベル 2（やや活発な火山活動）】
 - ・火口底の湯だまり量は降水により一時的に増加しましたが、1 月以降は減少傾向にあります。
 - ・湯だまりの表面温度は 70℃前後と高く、熱的活動は引き続きやや活発な状態です。
 - ・1 月以降、湯だまり内で小規模な土砂噴出が確認されています。
 - ・孤立型微動および火山性連続微動の発生状況に大きな変化はありませんが、火山性地震は増加傾向にあり、地震・微動活動はやや活発な状態で推移しています。
 - ・以上のように、火山活動はやや活発な状態が続いています。今後、火山活動が活発化すれば噴石を火口外へ放出するような噴火の可能性もあります。火口周辺では注意が必要です。
- 3) 雲仙岳【火山活動度レベル 1（静穏な火山活動）】
 - ・火山活動に変化はなく、静穏に経過しています。
- 4) 霧島山
 - 【御鉢：火山活動度レベル 2（やや活発な火山

活動)】

【新燃岳：火山活動度レベル 1（静穏な火山活動）】

- ・新燃岳付近の火山活動は、静穏に経過しています。
- ・御鉢火口では 1 1 月 2 1 日に振幅のやや大きな火山性微動が観測され、時折火口縁を越える噴気が観測されるなど、火山活動はやや活発な状態が続いています。火口内および南側火口縁では注意が必要です。

5) 桜島【火山活動度レベル 2（比較的静穏な噴火活動）】

- ・桜島南岳では今期間も噴火が発生しましたが、桜島の活動としては比較的静穏な状態で経過しています。
- ・火山性地震、火山性微動は少ない状態で経過しています。そのなかで A 型地震※はやや多い状態が続いています。
- ・昨年 1 1 月以降地殻変動が加速する傾向が見られます。
- ・これらのことから、今後火山活動が活発になる可能性があります。

※火山性地震には、通常の構造性地震と同じような P 波、S 波が明瞭で高周波の波動からなる A 型地震と、位相が不明瞭な低周波の B 型地震があります。桜島の A 型地震は、マグマ等の貫入に伴い地殻が破壊されるために発生していると考えられ、B 型地震はマグマ内の火山ガスの発泡等によって火道内で発生する地震とされています。過去の活動において、A 型地震が多発し、震源が浅部に移動した後、B 型地震が増加し噴火活動が活発になった事例があります。

6) 薩摩硫黄島【火山活動度レベル 2（やや活発な火山活動）】

- ・1 0 月には時折噴火が発生するなど火山活動は活発でしたが、1 1 月以降は噴火の発生もなく静穏に経過しています。

7) 口永良部島【火山活動度レベル 2（やや活発な火山活動）】

- ・火山性地震・微動は 1 2 月下旬以降やや多い状態が続いています。また、1 月には新岳の

北西 2 k m 付近で地震が発生しましたが、これらの地震についても注意深く監視する必要があります。

- ・新岳付近の噴気量が増加するなど噴気活動はやや活発な状態です。
- ・以上のように火山活動はやや活発な状態で経過しています。

8) 諏訪之瀬島【火山活動度レベル 3（小規模な噴火が発生）】

- ・噴火は時折発生しており、その中で爆発的噴火が発生するなど、火山活動は活発な状態が続いています。

5. 海底火山

- ・福徳岡ノ場では、変色水が度々観測されています。

平成17年2月23日
気 象 庁

浅間山の火山活動に関する
火山噴火予知連絡会統一見解

浅間山は、火山活動には低下傾向が認められず、引き続き火山活動の状態を注意深く監視していく必要があります。

昨年9月1日に爆発的噴火が発生した浅間山では、9月中旬に山頂火口内に溶岩が出現し、山頂噴火を繰り返しました。11月14日にも、噴石を中腹まで飛散させる爆発的噴火が発生しました。

噴火は12月9日以来観測されていません。10月以降火口底の深さはわずかに深くなっている傾向も見られますが、大きな変化はありません。また、火口周辺の地殻変動データには大きな変化は認められません。

しかし、火山性地震や微動の活動は継続しており、火山ガスの放出量も多く、火口底の温度が高い状態が続いています。また、周辺部のGPSによる地殻変動観測によれば、10月以降に再び始まった山体のゆっくりとした膨張が現在も続いています。

以上のように、大規模な噴火が切迫していることを示す観測データはありませんが、活発な噴煙活動や地震活動が続き、深部での膨張を示す地殻変動も観測されており、火山活動に低下傾向は認められず、今後これまでのような噴火を繰り返す可能性は否定できません。引き続き、噴煙活動、地震活動、地殻変動等を注意深く監視していく必要があります。

これまで同様爆発に伴う噴石には注意が必要です。また、風下での火山レキ・火山灰等にも注意が必要です。また、爆発時の空振にも注意が必要です。